

【特別賞】



「盲学生と日本語」

カンワン・スパヤーン (盲学生)

(タイ。タマラートスクサースクール・二〇歳・男)

みなさんはタイで、目のみえないひとが 必ずかしいべんきょうをされると思いませんか。目のみえないひととべんきょうすることができません。

わたしはもうがくせいです。にほんごをべんきょうしています。

目のみえるがくせいは、カタカナ、ひらかな、かんじをつかいます。でもぼくたちはてんじをつかいます。きょうしつで、わたしたちはこくばんをみたり、ほんをよんだりすることができません。それでぶんぼうやしんぼるがわかりません。あとで、せんせいやともだちにしつもんしなければなりません。

目のみえるひとと、めのみえないひとがきょうしつで、いっしょにべんきょうします。それでせんせいはぼくたちにあまりじかんがありません。

きょうしつのなかで ぶんぼうやもんだいを、ふくしゅうします。

うちへかえってかられんしゅうもんだいを、ふくしゅうします。

じかんがあったらことをふくしゅうします。コンピューターでにほんごをきいたり、にほんごがわかるようにします。

にほんごをべんきょうしてから、はつおんがかんたんだとおもいます。

にほんのぶんかは、おちゃや、はなや、りょうりがおもしろいです。

ぼくたちのきょうしつで、にほんじんがおしえてくれます。にほんじんのせんせいは、きびしいひとや、おもしろいひとがいます。

こうこう2ねんせいのは、たこやきや、まきずしや、おちゃをつくりました。それでこのかつどうは、とてもおもしろかったです。こうこう3ねんせいになったら、もつとわかりたいです。

ぼくがにほんごをべんきょうしたいとおもったのは、にほんのまんがにきょうみをもったからです。

いま2ねんかんべんきょうしました。三〇%ぐらいわかります。

もつとべんきょうしたいです。にほんごを一〇〇%わかるようになりたいです。

がんばります。

注・カンワン・スパヤーン君は、チェンマイ市にある仏教系高校三年生。日本語クラスの盲

学生。「作文」は、カンワン・スパヤーン君がアルファベット表記の「点字タイプ」で

書いた後、読んだのを、日本語ボランティア教師の小林実千子先生と横山英輔先生が聞

き取って、小林先生が主に「ひらがな」で文字起こしをしたもの。「点字文」と一緒に、

国際交流研究所へ郵送してくれました。担任は、ヌッジヤリン・ペンマアン先生。